

# 建築施工管理 チェックリスト

新訂五版

## 準備および基礎

準備・仮設

土

基礎・地業

## 躯体

鉄骨

防火・耐火

鉄筋

コンクリート

型枠

## 仕上げ

ALCおよび押出成形板・ブロック

防水

シーリング

カーテンウォール

石

タイル

木

屋根

金属

左官

吹付け

建具

ガラス

塗装

内装

外構

## まえがき

建築工事は現場施工が主流であり、そこで多くの工事業種がからみあう。建築施工管理には、各工事業種における要点を熟知し、全体工程のなかで相互の関連を読みこみながら、事故なく、手戻りなく、要求性能にかなった建築を工期のなかで完成させなければならないという、総合的で専門性の高い能力が求められる。

建築施工管理者は、建築の用途・規模が多様で、敷地状況も一定ではなく、標準施工というものを設定するのはなかなか困難な現状のなかで、その職能を実践しなければならない。近年では、建築が地球環境に及ぼす影響をも考慮して、建設副産物の処理のしかたや、環境負荷の少ない工法の選択などへの配慮も求められるなど、建築施工をめぐる要請はより細やかになってきている。

本書は、このような複雑多岐にわたる建設工事のなかで、施工を監督する立場に携わる建築施工管理者に、実践的な一助となるよう企図された。初版刊行から30年にわたり、建築施工管理者の必携書として活用いただいていたが、このたび、近年の状況にあわせて改訂を行い、新訂五版として刊行した。

建築工事現場にかかわる必要最少限の知識を各工事業種別に分類し、チェック項目と、それに必要な解説を現場の実状に即してまとめるという形式は踏襲し、それぞれの工事業種で現場経験豊かな執筆者にお願いして、法規や公的品質規定事項は実状に沿った内容に改めた。記述内容についても、現場で用いられる頻度の高い工法・材料といった視点から見直しを行い、わかりやすく、実践的に理解できるよう編集した。

建築の施工管理者に向けた本書であるが、これまでに、設計者の立場から工事監理にあたる方々にもご愛読いただいていた。立場はさまざまであっても、ひとつの現場で、共によりよい建築をつくろうとするすべての建設技術者に、実践の場で本書が活用されることを願ってやまない。

(編集部)

### ■編集協力 (50音順)

越田 和憲 (清水建設)  
鈴木 邦臣 (元 大成建設)  
中村 良雄 (戸田建設)  
早川 正 (竹中工務店)

### ■執筆者 (執筆順)

中村 良雄 (戸田建設)  
犬伏 昭 (清水建設)  
松本英一郎 (清水建設)  
角陸 純一 (清水建設)  
野萱 勝久 (清水建設)  
杉本 明 (清水建設)  
松岡 伸一 (清水建設)  
山宮 輝夫 (大成建設)  
鈴木 邦臣 (元 大成建設)  
坪内 信朗 (日本ビソー)  
吉川 一三 (元竹中工務店)  
早川 正 (竹中工務店)  
井上 秀之 (清水建設)  
大澤 悟 (竹中工務店)  
檜垣 恭一 (戸田建設)  
高橋 孝治 (湿式仕上技術センター)  
金田 進 (竹中工務店)

### ■執筆分担

中村 良雄 準備・仮設、土、基礎・地業  
犬伏 昭 鉄骨  
松本英一郎 防火・耐火  
角陸 純一 鉄筋  
野萱 勝久 コンクリート  
杉本 明 型枠  
松岡 伸一 ALC および押出成形板・ブロック  
山宮 輝夫 防水、シーリング  
鈴木 邦臣 カーテンウォール  
坪内 信朗 石、内装  
吉川 一三 タイル  
早川 正 木、屋根  
井上 秀之 金属  
大澤 悟 左官、吹付け  
檜垣 恭一 建具、ガラス  
高橋 孝治 塗装  
金田 進 外構

## 目次

### 準備および基礎 5

準備・仮設	6
土	12
基礎・地業	24

### 軀体 31

鉄骨	32
防火・耐火	58
鉄筋	62
コンクリート	73
型枠	99

### 仕上げ 115

ALC および押出成形板・ブロック	116
防水	126
シーリング	135
カーテンウォール	144
石	154
タイル	159
木	167
屋根	173
金属	179
左官	186
吹付け	205
建具	215
ガラス	225
塗装	230
内装	245
外構	258

## 一般事項

- 設計図・仕様書により工事範囲の確認を行ったか
- 設計図・仕様書の記載事項について疑義はないか
- 石種・構工法と使用箇所は適合しているか
- 施工箇所別の張り工法の検討を行ったか
- 乾式工法の仕様・施工管理要領について十分な検討を行ったか
- 石の材種・色調および仕上げの程度を見本によって確認を行ったか
- 許容範囲の石材が所要量入手可能か
- 使用材料の数量が正しく工事数量書に計上されているか
- 役物の種類と数量の調査を行ったか
- 専門工事事業・製作所の選定は適切か
- 全体工程に基づいた工程表の検討を行ったか
- 施工計画書を作成したか
- 施工図を作成し検討を行ったか
- 材料の搬入日時および場内運搬の打合せを行ったか
- 建具・設備機器等の関連工事との取合いについて検討を行ったか
- 石材の特殊加工箇所の仕様と納まりについて検討を行ったか
- 仕上げ墨の検討を行ったか
- 柱心・窓心・壁および出入口の出入り墨はよいのか
- 足場の仕様とその組立ておよび解体について打合せを行ったか
- 施工箇所周辺の配管・塗装・溶接などの工事は完了しているか
- 損傷・汚染に対する養生方法について打合せを行ったか

## 張り石・敷石

- 工事に使用される各材料について確認を行ったか
- 工事に使用する金物類は適正か
- 金物類の位置・間隔・数量の確認を行ったか
- 下地の欠陥部分を調べ、その補修が完全にできているか
- 搬入された石の寸法・形状・数量・損傷の有無を調べたか
- 石の裏面処理の要否・種別の確認を行ったか
- 最下部の石の据付けは正しいか(水平・垂直・位置)
- 下地面と石裏の仕上げ代の確認を行ったか
- セメントモルタルの割合の確認を行ったか
- 下地へのアンカーは適切に設けられているか
- だば・取付け金物の取付けは適正に行われているか
- 出隅・入隅のかすがい金物が入っているか
- 裏込めモルタルは十分に充填されているか
- 湿式工法で、上段の石の荷重を受けるに十分な状態になっているか
- 各段の石の取付けは正しく行われているか(目地幅・水平・垂直)
- 敷石を施工する下地面は水洗い清掃が十分に行われているか
- 敷石と躯体の接する箇所に伸縮目地の設置は適切か
- 外構床下地の排水経路は確保できているか
- 外部床と内部床が連続する箇所で止水措置が講じられているか
- 屋外笠木に適当な間隔で伸縮目地を設けているか
- 張り石面の目通り、目地幅に、不陸・目違いなどはないか
- 目地の仕様・材料は適切か
- 目地材充填部の清掃は十分か
- 目地モルタルを十分に押さえているか
- 目地の仕上げは指示通りに行われているか
- 石面の清掃は十分に行われているか
- 汚染・破損防止の養生は正しく行われているか

## 結晶化ガラス

- 施工図を作成し検討を行ったか
- 材料の色調、割付け寸法、目地幅などの確認を行ったか
- 出隅・入隅・特殊部分の納まりの検討を行ったか
- 材料の加工は指示通りに行われているか
- 曲面板の半径を指示したか
- 板厚は指示通りの寸法になっているか
- 取付け工事に当たって施工会社と打合せを行ったか

## 2 設計図・仕様書の記載事項について疑義はないか

施工箇所のリストを作成し、施工手順に従って、石種名・仕上げの程度・下地・取付け仕様などを記入する。このリストと照合しながら平面図・展開図および仕様書に疑義がないかを明確にする。

また、取合いとなるほかの仕上げとの関連および取合いを明らかにする。

また工事については、だば・引き金物・受け金物類の寸法・数量、石裏と詰めの有無など、納まり上不都合となる部分がないかを調べておく。①②③④⑤

## 3 石種・構工法と使用箇所は適合しているか

石材は耐久性に優れた材料であるが、石種により特性が異なる。

外部は花崗岩が使われることが多く、砂岩・石灰岩が使われることもある。

大理石・石灰岩は主成分が炭酸カルシウムであり、酸の影響で早期の光沢低下や表面劣化を生じるため、外部での使用は避け、内部に用いる。①

## 5 乾式工法の仕様・施工管理要領について十分な検討を行ったか

昨今、乾式工法は内外壁張り工事の主流になっているが、耐震性、耐風性などを確保するための仕様検討および施工管理が必要である。多くはコンクリート躯体を下地とするが、特に内壁では鉄骨下地を用いることも少なくない。

乾式工法ではばらつきがなく、十分な石材・取付け金物耐力、取合い部の納まりが重要で、耐震性を得るために変形追従性、耐慣性力を盛り込んで設計されるが、これらの特性を確保する施工管理が必要である。

ちなみに、乾式工法の場合も根石、腰壁では通常、湿式工法と同様の考え方で裏込めモルタルを充填する。したがってこれらの施工に関する留意事項は、湿式、乾式いずれの工法の場合も共通である。②③

## 6 石の材種・色調および仕上げの程度を見本によって確認を行ったか

石の材種については、まず、その名称、産地、取扱業者、生産量を確かめる。石材の色合い・模様・仕上げの程度などは、

① 工法、適用部位および石種の組合せ (JASS 9-1996)

部位	場所	工法	石種									
			花崗岩	安山岩	大理石	蛇紋岩	粘板岩	砂岩	凝灰岩	石灰岩	テラゾ	擬石
壁	外部	湿式工法	○	○	△	△	△	○	□	△	×	○
	外部	乾式工法	◎	◎	△	△	×	○	×	△	×	○
	内部		◎	□	◎	◎	□	○	×	○	◎	△
	外部	石先付けPC	◎	◎	△	△	×	○	×	△	×	□
	内部		◎	○	◎	◎	×	○	□	□	×	□
	内部	空積み工法	○	□	◎	◎	×	○	○	◎	◎	○
床階段	外部	敷きモルタル	◎	◎	△	△	◎	△	△	○	×	○
	内部		◎	◎	◎	◎	◎	△	△	○	◎	○

◎:よく用いられる ○:用いられる △:注意して用いる □:稀に用いられる ×:用いない

設計図書で表現しにくい場合に、同じ名称の石材でも採石場所により多少の違いがあるので、見本品を提出させ決定する必要がある。④

## 10 専門工事事業・製作所の選定は適切か

製作所の選定に当たっては、次のような事項に留意する。

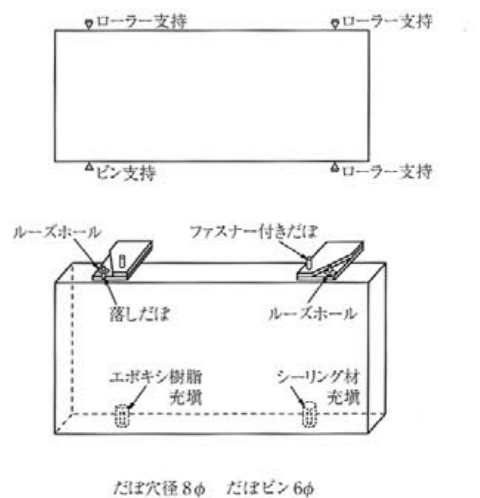
- 1) 石材の調達先
- 2) 工場の経歴・実績など
- 3) 工場の規模および設備
- 4) 加工能力・取付け能力
- 5) 製品のできばえ
- 6) その他

## 12 施工計画書を作成したか

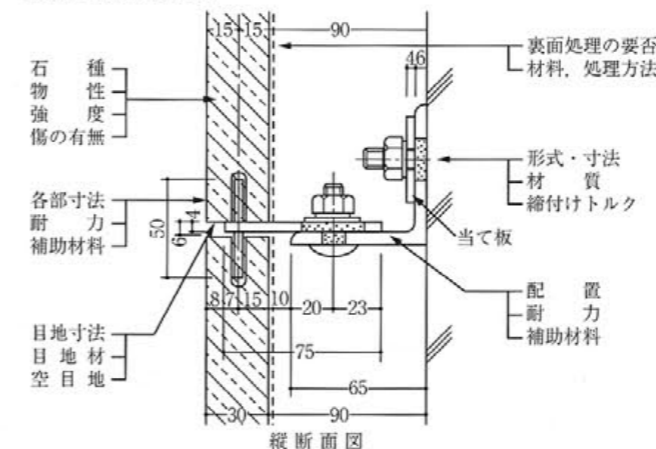
施工計画書には次のような項目について記載する。

- 1) 工程表(作業の流れ)⑤
- 2) 施工要領書
- 3) 施工会社、作業の管理組織
- 4) 石材の種類、仕上げの種類、使用箇所

② 乾式工法による面内変形の吸収機構の例 (JASS 9-1996)



③ 乾式工法の留意事項



④ 石材の種類と表面仕上げ (JASS 9-1996)

	のみ切り	びしゃん	小叩き	ジャエツナー	割り肌	プラスチック	ウオージェット	粗磨き	水磨き	本磨き
花崗岩	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大理石	-	-	-	-	-	○	-	○	○	○
砂岩	-	-	-	-	○	○	-	○	○	-

○:適している



- 所
- 5) 加工工程, 保管要領
- 6) 取付け工法, 施工順序
- 7) 金物類 (取付け金物, 受け金物, だば, かすがい, アンカーなど) の材種, 形状, 寸法
- 8) 補助材料 (石裏面処理材, 目地材等)
- 9) 目地仕様
- 10) 取付け後の養生

承認を得なければならない。  
 施工図として, 石割図, 金物類の取付け図, および納まり詳細図などを作成する。特に役物については, 現寸図により加工寸法, 緊結方法, および他の仕上げ材料との納まりなどを表示する。

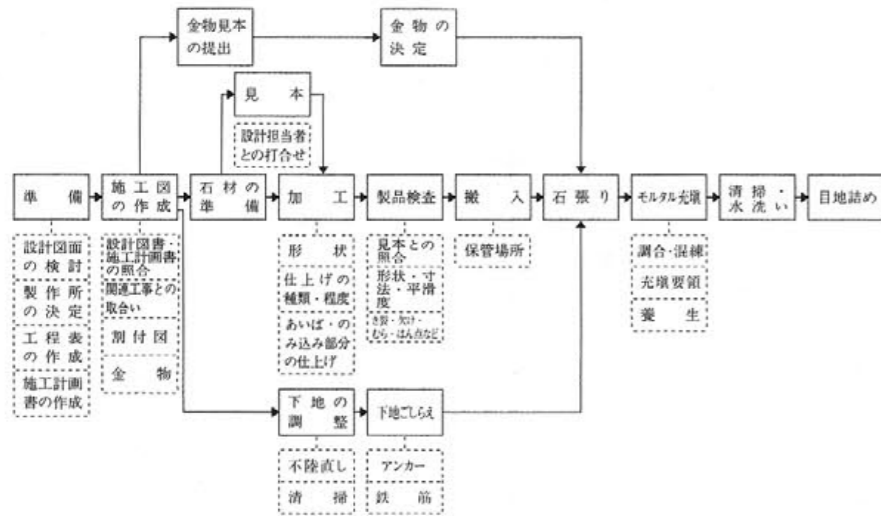
### 17 仕上げ墨の検討を行ったか

仕上げ墨は, 通常, 基準墨から計測し下地面に表示するが, その際, 石割図の誤認, 訂正もれなどによる間違いが生じることが

### 13 施工図を作成し検討を行ったか

施工に先立ち施工図を作成し, 監理者の

⑨作業の流れ (JASS 9-1996)



⑩湿式工法・空積み工法用金物 (材質: ステンレス) (JASS 9-1996) (最小寸法・単位: mm)

石種・石厚	金物	引き金物	だば	かすがい
花崗岩 石厚 40 未満	径 3.2 (3.0)	径 3.2	径 3.2	径 3.2
大理石 //			埋込み長さ 20	埋込み長さ 20, 働き長さ 50
テラズブロック //				
花崗岩 石厚 40 以上	径 4.0	径 4.0	径 4.0	径 4.0
擬石 石厚 45~50			埋込み長さ 25	埋込み長さ 25, 働き長さ 50

注 ( ) 内は, 空積み工法の高さ 3.0 m 以下の部分に適用

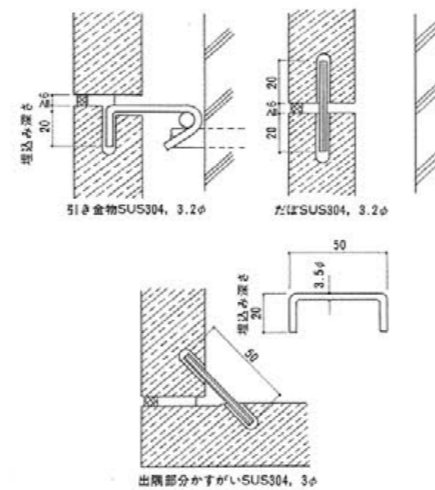
⑪外壁まわり乾式工法に用いる金物 (『外壁の乾式張り構法設計・施工指針/同解説』全国建築石材工業会より作成) (mm)

石厚	中低層部分		中高層部分	
	25	30	25	30
石割り	900×600	1,000×700	1,000×700	1,000×600
張り代	100	100	100	100
目地幅	8	8	8	8
だばピン*	4φ×50	4φ×50	4φ×50	4φ×50
だばピン埋込み深さ	20	20	20	20
一次アングル*	60×50×4	60×50×5	60×50×5	60×50×5
二次プレート*	60×65×4	60×65×4	60×65×4	60×65×4
アンカーボルト	M-8	M-8	M-10	M-10
締付けボルト*				

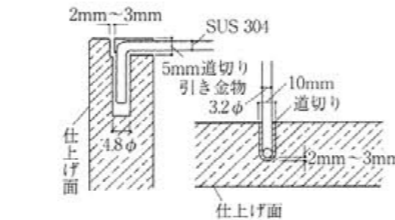
\* SUS 304 とする。アンカーボルトはスリーブ打込み式ボルトタイプアンカー

ある。また図面通りであっても床仕上げ・階段回り・カウンター・窓出入口サッシ・埋込みボックス類・照明器具・間仕切りなどの関係で, 実際には納まらないことがある。特に壁面では, 出隅・入隅の角度, 床墨と天井墨の引通しおよび垂直をチェックし, 仕上げ面のねじれ・傾きに注意する。すでに取り付けられている窓出入口枠・巾木類に, 位置の悪いもの, ちり仕上げが不備なもの, 反り・ねじれなどのあるものが発見された場合は, 直ちに補正するか対策を検討しなければならない。

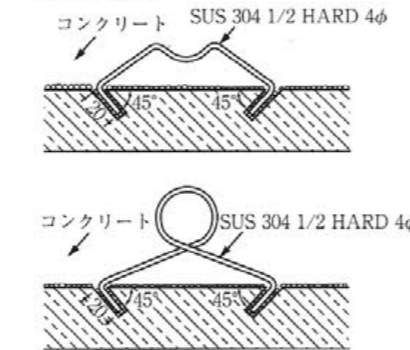
⑫湿式工法用金物の使用例 (JASS 9-1996)



⑬引き金物の道切り寸法 (JASS 9-1996)



⑭PC 部材打込み工法用金物 (シアコネクター) (JASS 9-1996)



### 21 損傷・汚染に対する養生方法について打合せを行ったか

壁面・床面は, 工事が完了するまで表面の汚れ・破損を防ぐため, ポリエチレンシート・合板などを用いて養生しなければならない。養生のときに用いるビニルテープ・粘着テープはその粘着剤によって表面を汚すことがあるので, 事前に養生方法について検討する必要がある。床の場合は, モルタルが硬化するまで歩行を禁止する。

### 23 工事に使用する金物類は適正か

湿式, 乾式のいずれの工法においても金物は, 石種, 取付け工法, 使用箇所により, 材種・径・形状・寸法が異なるため, 事前に見本を提出し監理者の承認を受けることが必要である。⑥⑦⑧⑨⑩

### 24 金物類の位置・間隔・数量の確認を行ったか

湿式, 乾式のいずれの工法においても金物類は, 石材を正しい位置で下地に強く取り付ける役目を果たすものである。したがって石の重量を考慮して, 位置や数量を決定しなければならない。①

### 25 下地の欠陥部分を調べ, その補修が完全にできているか

石材に損傷 (汚染・剥離・欠け・ひび割れなど) を与えるような下地は, あらかじめ補修しておく必要がある。コンクリートのひび割れ, じゃんかは, 湿式, 乾式のいずれの工法においても取付け金物の下地への取付け耐力に影響を及ぼす。また, 鉄筋の防錆なども特に注意する。

### 27 石の裏面処理の要否・種別の確認を行ったか

外壁の最下段で土に接したり, 裏込めモルタルを充填する部分や, PC 部材打込み工法では, 石材が吸水し色むらを生じることがある。これが長期間にわたると石材が変色し見苦しくなる。そのため, 石材の裏面や小口にエポキシ樹脂などを塗布し, 水分の浸透を防止する。

また, 乾式工法では, 石厚が小さかったり, 山傷などの影響で, 長期的に見た板石の破損が懸念される場合は繊維補強樹脂の裏打ち処理などを施す。

### 28 最下部の石の据付けは正しいか (水平・垂直・位置)

湿式, 乾式のいずれの工法においても壁面全体の仕上げ精度は, 最下段の石を仕上げ墨に合わせて, 水平かつ垂直になるよ

う据え付けることで決まる。そのため, 石材の底面および躯体との間にくさびを差し込み, 石材の上部に止め木を設けて調整し, 底面に硬練りモルタルを充填する。その後, 石材の上部をかすがいや引き金物で躯体に固定する。なお裏込めモルタルの充填に当たっては, 石が押し出されないようにするため, 数回にわたって少しずつ充填しなければならない。

### 29 下地面と石裏の仕上げ代の確認を行ったか

下地面と石裏との間は, 下地コンクリート面の不陸を吸収して良好な仕上げ精度を確保するとともに, 石材の取付けと裏込めモルタルの充填作業が適切に行えるためのスペースが必要である。一般的には, 湿式工法では 40 mm, 乾式工法では 85~100 mm ほどあける必要がある。⑫

### 31 下地へのアンカーは適切に設けられているか

下地へのアンカーは先付け (埋込み) アンカーが望ましいが, 施工性や施工精度が確保しにくい場合, あと施工アンカーが多く用いられている。あと施工アンカーは締込みにもよって拡張するタイプが引抜き耐力が大きく, 信頼性が高い。したがって, このタイプのアンカーを用い, 精度よく取り付ける。⑬

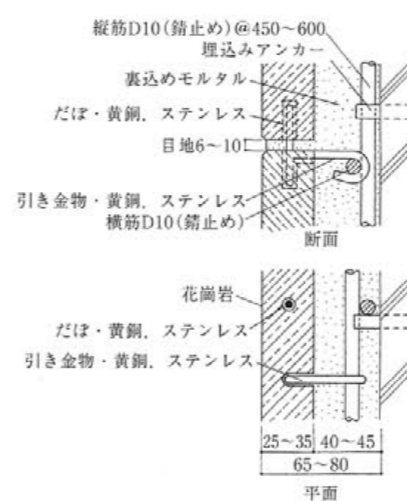
### 32 だば・取付け金物の取付けは適正に行われているか

従来からの湿式工法では裏込めモルタルと引き金物を併用して精度よく石材を取り付ける。しかし, 乾式工法におけるだば・取付け金物は, さらに長年月にわたって風や地震力に耐え, 地震時の建物挙動に追従しなければならない。したがって, 取付け

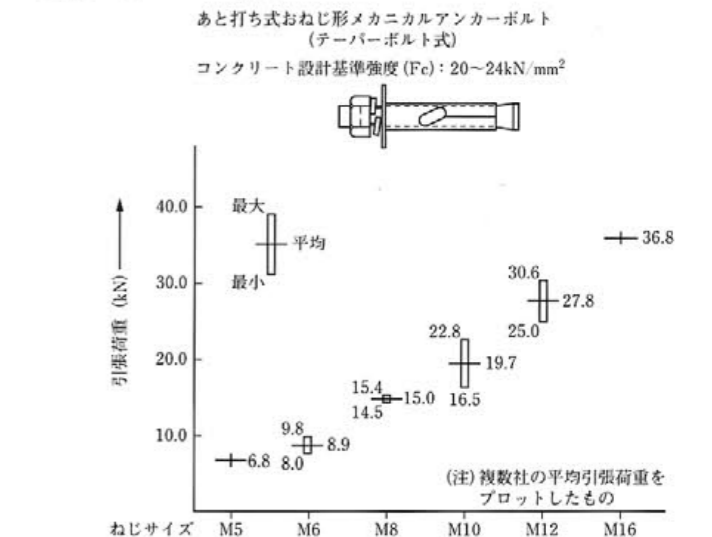
⑬金物の位置および数量 (JASS 9-1996)

	流し筋による場合	メカニカルアンカーによる場合	メカニカルアンカー横筋流しによる場合
だばおよび引き金物	張り石 1 枚当たり 4 カ所 (数量的には 1/2)	同左	同左
横筋	D 10 横目地位置	—	D 10 横目地位置
縦筋	D 10 @ 450	—	—
メカニカルアンカー	—	引き金物位置と同じ (引き金物と同数)	横筋を受ける位置 (@ 450)
受け金物	建物の階高ごと。張り石 1 枚当たり 2 点支持 (あるいは通し金物とする)	—	—

⑯外壁湿式工法の例 (JASS 9-1996)



⑰あと施工アンカーの耐力実験例 (『あと施工アンカー技術資料』第 5 版 日本建築あと施工アンカー協会)



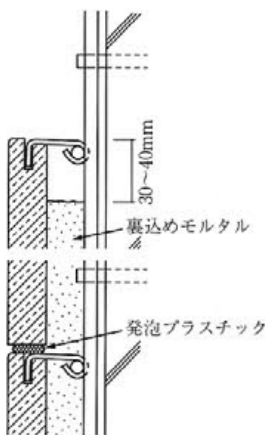
金物は個々の板石を確実に保持し、石材同士や取合い部で影響し合わないような位置で、地震時の挙動等を阻害しないように堅固（締付けトルクの管理など）に取り付けられる必要がある。

### 34 裏込めモルタルは十分に充填されているか

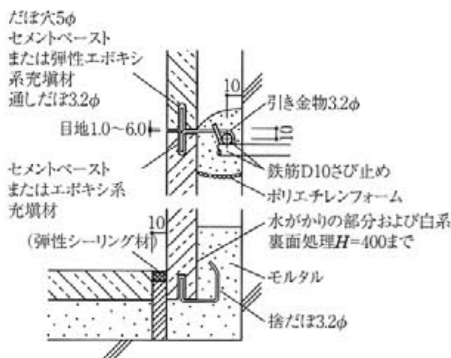
裏込めモルタルの充填目的は、下地面と石材を固着させるために行うものである。モルタル注入に際しては、下地面をよく清掃し、モルタルの水分が吸収されないよう両面に湿潤を与えておく。目地にはモルタルが流れ出ないように発泡プラスチック材を挿入する。⑬

また、取付け金物回りなどで部分的に用いるモルタル（空積み工法）は、ひび割れや脱落を生じないような材質、塗付面積および塗付方法とする。

⑬裏込めモルタルの充填



⑭内壁石張りの伸縮目地 (JASS 9-1996)



### 36 各段の石の取付けは正しく行われているか (目地幅・水平・垂直)

従来から石の取付け精度は高いものが要求され、特に内装大理石では目地幅もない状態（眼目地）であった。外装石張りでも、かつて湿式工法ではより小さい目地幅のものが多かったが、過去の震災で、適正目地（設置位置・幅・目地材など）が石張りの被害を抑制したと見られている。

乾式工法は石張り面への水の影響回避に加えて、目地による石材同士や取合い部の影響を低減して地震時の建物挙動に追従させる工法である。したがって適正な位置に、望ましい目地幅⑯を確保しなければならない。

### 38 敷石と躯体の接する箇所の納まりに伸縮目地の設置は適切か

内外部の床面においては、敷石の膨張や躯体の伸縮によって、敷石が反り上がりたり割れたりすることがある。それらの損傷を防止するために壁面の立上がり部に接する位置に伸縮目地を設ける。床面が大きいときは適切な間隔に伸縮目地を設ける。⑮

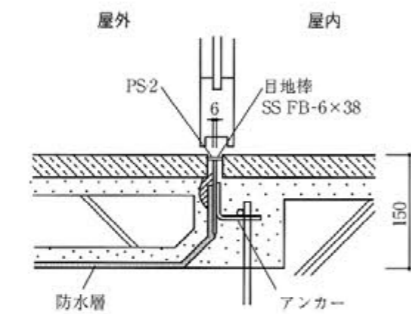
### 40 外部床と内部床が連続する箇所で止水措置が講じられているか

屋外から屋内につながる床石張りの境界部分では、下地および張りモルタル層の止水措置が不十分な場合は、屋外の降雨水が下地モルタル層を伝わって屋内に浸入し、さらに床石に浸透して、屋内床石に濡れ色、染み汚れ、白華などを生じる。⑯

### 43 目地の仕様・材料は適切か

石目地には使用箇所・目的に応じて、セメントモルタル、シーリング材等を充填する。場合により空目地とすることもある。

⑯外部床と内部床の止水措置の例



また、シーリング材は用い方によって石張り面を汚染することがあり、材料・仕様等に留意しなければならない。⑰

### 46 目地の仕上げは指示通りに行われているか

内装の大理石張りやテラゾーブロック張りは、ねむり目地とする場合が多い。ねむり目地とする場合でも0.5mm程度の目地を設けて施工する。エッジ部分は、破損を防止するためにわずかな糸面を取るようにする。

### 49 施工図を作成し検討を行ったか

設計図に基づき、板の割付けおよび施工の詳細図を作成し、監理者の承認を得なければならない。施工図は、次のような項目を検討の上作成する。

- 1) 色調、割付け寸法、目地幅、目地材の色調
- 2) 出隅・入隅・特殊部分の納まり
- 3) 曲げ板の半径および納まり
- 4) 開口部（窓、出入口など）回りの納まり
- 5) 孔あけ・切欠き加工部の寸法

### 52 材料の加工は指示通りに行われているか

板の割付図に基づいた加工寸法になっているかを確認する。特に2次加工となる出隅、入隅、孔あけ、切欠きなどは取付け箇所との関係もあり、所定の寸法精度になっているかを確認する。

なお、小ピースを用いた出隅や壁石と笠木が取り合う部分の役物などで、有機質接着剤を用いて一体化することは、経年に伴う劣化が懸念され、避ける。もし、採用する場合はだぼや引金物などを用いて、各ピースごとに十分な脱落防止措置を施す。

⑰汚れ防止からみたシーリング材の適合性 (JASS 9-1996より作成)

	花崗岩	大理石
MS 1 (1成分形変成シリコーン系)	○	△
MS 2 (2成分形変成シリコーン系)	○	△~×
PS 1 (1成分形ポリサルファイド系)	○	×
PS 2 (2成分ポリサルファイド系)	○	○~△

注 プライマーの使用が前提

# タイル

## タイル後張り工法

### ●設計図書の確認

1. 工事施工範囲の確認を行ったか
2. タイル張付け工法・下地の種類は適切か
3. タイルの種類・材質・形状・寸法・裏足形状は適切か
4. 目地の形状・寸法は適切か
5. 構造スリット、ひび割れ誘発目地の位置・寸法の確認を行ったか
6. 異種材料および設備機器との取合いは適切か

### ●施工図の作成

7. 役物の種類と数量の調査を行ったか
8. ひび割れ誘発目地・伸縮調整目地の配置、同目地の形状・寸法は適切か
9. 開口部、設備機器等との取合い部について検討を行ったか
10. 出隅・入隅などのタイル張り詳細図の確認を行ったか
11. タイルの割付図を作成したか

### ●施工計画書・施工要領書の作成

12. 総合工程表に基づいてタイル工事工程表の検討を行ったか
13. 見本焼きの提出、材料の搬入期日に無理はないか
14. 現場での張り作業の日程に無理はないか
15. 墨出し、施工の要領の確認を行ったか
16. 下地処理工法の確認を行ったか
17. 品質管理項目は適切か
18. 工程、搬入、積み下ろし、工具、搬入経路、作業期日の打合せを行ったか
19. 施工要領書の内容の確認を行ったか

### ●使用材料の確認

20. タイルの材質と用途は適切か
21. タイルの吸水率・寸法・裏足形状の確認を行ったか
22. 下地調整材の種類・調合・工法などについて確認を行ったか
23. 張付け材料の種類・調合について確認を行ったか
24. 目地材の種類・調合について確認を行ったか
25. 使用するタイルの形状・寸法、色調および裏足形状を見本と照合し確認を行ったか
26. セメント・砂・混和剤・既製調合モルタル・既製調合目地材の検査を行ったか

### ●試験張り

27. 施工箇所別の見本を取り揃えたか
28. 見本張りをし、目地の幅・色などを決定したか
29. 試験張りをし、張付け材料・工法の適合性の確認を行ったか

### ●施工箇所の養生

30. 作業場に日除け・風雨養生その他の養生材が整備されているか
31. 施工時および施工後の気温に対する配慮を行ったか
32. 足場の使用とその組立および解体について打合せを行ったか
33. 安全対策などについて打合せを行ったか

### ●下地調整

34. 下地調整工法の打合せを行ったか
35. コンクリート下地面の処理、清掃は十分か
36. 下地調整モルタルの調合の確認を行ったか
37. 下地調整モルタルの接着強さの確認を行ったか
38. 下地の表面仕上がり、精度の確認を行ったか

### ●下地検査

39. 仕上げ墨の検査を行ったか
40. 下地面の精度の確認を行ったか
41. ひび割れ・コールドジョイント等下地の欠陥調査とその補修ができていないか
42. 下地調整モルタル面のひび割れ・浮きの確認を行ったか
43. 水切り・水返し類および排水金物類の取付けは完了しているか
44. サッシなど開口部回りの防水処理の確認を行ったか

### ●タイル張り

45. 現場の実測寸法によるタイル割付けの確認を行ったか
46. 水糸により納まりの確認を行ったか
47. 張付けモルタルの調合の確認を行ったか
48. 施工時の気温の確認を行ったか
49. 下地面の乾燥状態の確認を行ったか
50. 張付けモルタルの塗り置き時間・練り置き時間の確認を行ったか
51. タイル裏足へのモルタル充填状況の確認を行ったか
52. 伸縮調整目地の位置・寸法・仕様は適切か
53. 各タイル張り工法の注意点の確認を行ったか

### ●目地詰め

54. 目地詰め部がきれいに清掃されているか
55. 目地モルタルの調合の確認を行ったか
56. 目地押さえの程度の確認を行ったか
57. 目地幅・深さの確認を行ったか

### ●検査

58. タイル浮きの有無の確認を行ったか
59. 仕上がり精度の確認を行ったか
60. 接着強さの確認を行ったか

### ●タイル洗い

61. 使用洗剤の確認を行ったか
62. 周辺養生の状態の確認を行ったか

## タイル先付け工法

### ●設計図書の確認

63. コンクリートの種類・設計基準強度の確認を行ったか
64. 取付け金物の品質および防錆処理の確認を行ったか
65. タイルの種類・材質・形状・寸法および裏足形状について確認を行ったか
66. 見本部材製作の有無の確認を行ったか
67. 部材の寸法・形状・重量の確認を行ったか
68. 製品の寸法許容差の確認を行ったか

### ●製作要領書および製作工程計画の確認

69. 型枠寸法の確認を行ったか
70. 配筋・金物固定方法の確認を行ったか
71. コンクリートの調合・打設方法の確認を行ったか

### 72. 養生方法の確認を行ったか

73. 脱型時強度の確認を行ったか
74. 寸法検査項目・方法・許容差の確認を行ったか
75. 総合工程計画に基づいてPC部材の製作工程計画の検討を行ったか

### ●使用材料の確認

76. タイルの形状・寸法・材質の確認を行ったか
77. タイルユニットの形状・寸法・材質の確認を行ったか
78. コンクリートの種類・設計基準強度・スランブの確認を行ったか

### ●PC部材の品質の確認

79. PC部材の精度の確認を行ったか
80. 鉄筋のかぶり厚さの確認を行ったか
81. 目地形状の確認を行ったか
82. タイルの接着力の基準は明確か

### ●PC部材の製作

83. コンクリートの調合・練混ぜの確認を行ったか
84. タイルユニットの割付図の確認を行ったか
85. タイルユニットの搬入時期の確認を行ったか
86. 型枠の寸法許容差の確認を行ったか
87. 型枠寸法の検査を行ったか
88. タイルユニットの敷き並べ方法の確認を行ったか

### 89. 目地処理方法の確認を行ったか

90. 配筋・先付け金物の取付け方法の確認を行ったか
91. コンクリートの打込み方法・養生方法の確認を行ったか
92. 脱型時期・脱型方法の確認を行ったか
93. タイル面の清掃方法の確認を行ったか
94. タイルの接着強さの確認を行ったか

### ●製品検査

95. PC部材の精度の確認を行ったか
96. タイル面の仕上がり状況の検査を行ったか
97. タイル剥離の有無の検査を行ったか
98. ひび割れの有無の検査を行ったか
99. 先付け金物の取付け状況の確認を行ったか

### ●保管・運搬

100. PC部材の保管方法の確認を行ったか
101. PC部材の出荷時検査方法の検討を行ったか
102. PC部材の荷積み方法の確認を行ったか
103. PC部材の運搬方法について確認を行ったか
104. PC部材の受入れ検査について検討を行ったか